

		7月27日(水)	7月28日(木)	7月29日(金)
テーマ		相談員		
大規模 経営者	午前	船生 典文 あかい菜園(株) 代表取締役 【福島県トマト生産者】 『いわきで多品種のトマトを生産、ICT技術への取組も積極的に行っています。』	井出 寿利 (株)井出トマト農園 代表取締役 【神奈川県トマト生産者】 『3000坪のハウスで、ロックワール栽培による周年栽培を実践中。』	新美 康弘 (株)にのみ農園 代表取締役 【愛知県トマト生産者】 『独自の栽培方式と豊富で良質な地下水を使って、味わい深いミニトマトを栽培。』
		林 俊秀 (株)Tedy 代表取締役 【茨城県パブリカ生産者】 『数値化、記録、データ化によるパブリカ大規模栽培を実践中。』	小林 陽一 小林園芸 代表 【千葉県トマト生産者】 『養液栽培による長期多段越冬栽培、販売は全て直販(自園販売所、道の駅等)』	針谷 明彦 【栃木県トマト生産者】 『7棟、125aの低コスト耐候性ハウスでトマト(大玉、中玉、ミニ) 養液栽培実践中。』
		野本 一弘 (有)葉っぱや 代表取締役 【千葉県葉菜生産者】 『農場で使用中の肥料養液について、継続した放射能検査結果を公開中。』	河合 吉久 【愛知県大葉生産者】 『ヒートポンプを導入して大葉の高品質栽培を実践中。』	榎本 雅夫 【千葉県バラ生産者】 『日本ばら切花協会の会長を務めた、名実共に日本を代表するばら生産者。』
		川島 孝夫 【埼玉県きゅうり生産者】 『雇用を活用したきゅうり多収安定生産を実践中。』	小林 豊 (株)信州サラダガーデン 代表取締役 【長野県パブリカ生産者】 『品質第一を合言葉に、美味しく楽しく美しいパブリカを生産。』	茂木 敏彦 (株)モテギ洋蘭園 代表取締役社長 【埼玉県洋ラン生産者】 『国内及びアジア市場の深耕を目指して、海外リレー栽培を確立。』
	午後	大山 寛 全国野菜園芸技術研究会 会長 【栃木県トマト生産者】 『全野研の会長で、国内最高水準のトマト栽培技術を持つ生産者。』	飯田 智司 (有)グリーンステージ大平 代表取締役 【栃木県トマト生産者】 『1haのガラスハウスで房どりトマトを生産。現在ジャムとソースも生産販売中。』	松村 務 農業生産法人 浅小井農園(株) 代表取締役 【滋賀県トマト生産者】 『朝恋トマトをブランド化、JGAP承認農場・統合環境制御。』
		稲吉 正博 (株)サンファーム富士小山 代表取締役 【静岡県トマト生産者】 『品質維持と管理によって魅力的な高糖度トマト“アメーラ”ブランド誕生。』	稲吉 慶介 (有)コスモファーム 代表取締役社長 【福岡県トマト・葉菜生産者】 『葉物のリレー周年栽培。』	井上 昌夫 (株)フレボファーム 南アルプス農場 【山梨県ほうれんそう生産者】 『高品質タイプのほうれん草を中心に最新の技術を導入して大規模生産を実践中。』
		小久保 恭一 (有)お花屋さんぶんご清川 代表取締役社長 【大分県菊生産者】 『全国有数の菊の生産地、愛知県田原市で1998年に設立された生産出荷法人の代表、大分県で栽培も行う。』	石井 理永蔵 (農)長生フロンティアファーム 代表理事 【千葉県トマト生産者】 『地域の若手生産者5名で立ち上げた新しい農事組合法人。新しい栽培方式に挑戦中。』	三倉 直己 三倉農園 代表 【静岡県いちご生産者】 『静岡県のイチゴ名人として有名な三倉農園。現在、植物工場へ挑戦中。』
		榎毛 隆行 【栃木県トマト生産者】 『栃木県JAはが野にて高軒高ハウスによる180a養液栽培を実践中。』	舩田 愛 【栃木県トマト生産者】 『1.2haのハイワイヤーハウスで、養液土耕によるトマト長期多段とり。』	小黒 昇巳 (有)いちごの里湯本農場 代表取締役社長 【栃木県いちご生産者】 『150棟の大規模ハウスで「とちおとめ」のイチゴ狩りが可能な観光農園を経営。』
	栽培技術	吉岡 宏 元 農研機構 野菜茶業研究所 所長		
		稲山 光男 三菱樹脂アグリドリーム(株) 技術顧問		
		荒木 陽一 農研機構 九州沖縄農業研究センター 産学連携コーディネータ		
	環境・ 省エネ技術	島地 英夫 前 農研機構 花き研究所 上席研究員		
林 真紀夫 前 東海大学 工学部 教授				
山口 智治 前 筑波大学大学院 教授				
植物工場・ 養液栽培	日本養液栽培研究会 担当者			
補助金等	農林水産省 園芸作物課 担当官			
	経済産業省 地域産業基盤整備課 担当官			
公庫 融資等	午前	農林中央金庫 担当者	J A三井リース(株) 担当者	(株)日本政策金融公庫 担当者
	午後	J A三井リース(株) 担当者	(株)日本政策金融公庫 担当者	農林中央金庫 担当者